

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 浅場 香

論文題目 がん薬物療法を受ける患者の症状の  
苦痛と健康関連 QOL の関係における  
ストレス対処力の緩衝効果

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 浅野 みどり

名古屋大学准教授 佐藤 一樹

名古屋大学教授 池松 裕子

## 論文審査の結果の要旨

種々のがん治療法の進歩と共にがん患者の生存期間が延長し、薬物療法を受けながら生活する患者が増えており、がん薬物療法に対する支持療法の開発は重要な課題となっている。がん治療にともなう副作用・合併症・後遺症に関する悩みのうち、がん薬物療法に関連した悩みは顕著に増加している。多くのがん患者がストレスの高い状況にあり、中にはうつ病を経験している患者もおり、それらは QOL を著しく低下させ、身体疾患の治療に悪影響を及ぼすことが示されている。がん薬物療法の副作用症状について、患者の多くは薬物療法の倦怠感と痛みが日常生活に影響を与えているが、それらの症状に対する患者の認識は、個々の患者の特性によって異なるのではないかと考えた。そこで本研究では健康関連 QOL に関連する個人特性であるストレス対処力 (SOC) に注目し、この SOC が患者の症状の認識に対する緩衝作用について明らかにすることとした。

本研究は、日本国内のがん診療病院に依頼し同意を得られた施設において、非小細胞肺癌の術後補助化学療法を受けている外来通院中の患者に自記式質問紙を配布し、66 名分の回答 (回収率 75.9%) を分析し、がん薬物療法中の症状の苦痛が健康関連 QOL に及ぼす影響に対する SOC の緩衝作用について検証した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。




健康関連 QOL を従属変数とした階層的重回帰分析、および、症状の苦痛とストレス対処力の交互作用項に対して調整変数  $\pm 1SD$  の値を代入する単純傾斜の検定を行った結果、次の関連を認めた。

1. がん薬物療法中の患者では、SOC は症状の苦痛が高い状況下においてのみ、症状の苦痛が健康関連 QOL に及ぼす負の影響を緩衝することが示唆された。
2. 本研究によって得られた知見から、がん薬物療法に伴う副作用症状マネジメントに関する看護として、患者のストレス対処力を考慮することが患者の健康関連 QOL を維持・向上させるために有用であることが示唆された。

これらの研究結果は、Supportive Care in Cancer に掲載された (ASABA K., et al. Supportive Care in Cancer 29, 4651-4662, IF=3.958)。

以上の理由により、本研究は博士 (看護学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	浅場 香
試験担当者	主査 名古屋大学教授		名古屋大学准教授	名古屋大学教授
	浅野 みどり		佐藤 一樹	 池松 裕子 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者のリクルート方法について</li> <li>2. SOC下位尺度の信頼性係数について</li> <li>3. 緩衝効果の定義について</li> <li>4. 階層的重回帰分析と単純傾斜分析の妥当性について</li> <li>5. SF-8™, SOC, SDS、それぞれのデータ分布について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				